

◇この議事速報（未定稿）は、正規の会議録が発行されるまでの間、審議の参考に供するための未定稿版で、一般への公開用ではありません。
 ◇後刻速記録を調査して処置することとされた発言、理事会で協議することとされた発言等は、原発言のまま掲載しています。
 ◇今後、訂正、削除が行われる場合がありますので、審議の際の引用に当たっては正規の会議録と受け取られることのないようお願いいたします。

○橋本委員長代理 次に、長妻昭君。

○長妻委員 立憲民主党の長妻昭です。

尾身先生、本当にお疲れのところありがとうございます。
 ざいます。

まず、尾身先生にお伺いいたしますけれども、きのう政府が閣議決定をいたしましたして、GOTOトラベルキャンペーンを、本当は一月末までが期限だったんですが、これを六月末まで延長するということを決定いたしました。

これは、尾身先生、分科会には、この延長の是非、延長していいですかというような諮問とか意見聴取というのはあったんでございませうか。

○尾身参考人 お答えいたします。

分科会にそういう諮問はございません。今のところ、ございません。

○長妻委員 諮問なく、意見を伺うことなく、閣議決定しちゃったんですかね。

これはちよつと尾身先生にお伺いするんですが、

例えば、大きなこととしては、十月一日に、GOTOトラベルキャンペーンで、それまで除外していた東京都を加えるということがあったと思うんですけども、そのとき、非常に重大な変更だと思ふんですけども、東京を加えていいですかというように、意見を聞かれたというのは、分科会はそのときはあったんでございませうか。

○尾身参考人 お答えいたします。

そのときは、十月一日の数日前、たしか九月の二十五日の分科会で私どもに諮問がありました。そこでは、東京都も、いわゆるステージ2といいますが、感染がかなり下火になっていくということがわかったので、政府の諮問に対して分科会として正式に了承したということでありませう。

○長妻委員 政府は、分科会、分科会、分科会の先生方がこういうふうにおっしゃっていたということをよく引用するわけですけども、分科会に否定されるだろうと政府が思ったのかどうかわかりませうけれども、こういう大切な、六月まで延長ということについて、分科会に意見を聞かない、これは私はおかしいと思ひます。

それは、分科会がGOTOトラベルについて、ステージ3については停止せよと言っていて、今もやっている地域があるということも鑑みて、意見を聞くとか否定的に言われるから、意見を聞かないですつ飛ばして自分たちだけで閣議決定してしまおう、こういうようなことがあったとしたら、私はとんでもないことだと思ひます。

きょう、国交副大臣が来られておられますけれども、所管がGOTOトラベルは国交省ですよ。

これは何で専門家の意見を聞かなかったんですか、延長するときに。

○岩井副大臣 委員にお答えします。

基本的なスタンス、すなわち、分科会の提言を踏まえて、各都道府県の御意見も踏まえるというそのスタンスは変わっておりませう。このたびのGOTOトラベルの期間の話については、それは全体的な話でございまして、当然、運用していく間に、感染状況をしっかりと把握しながら、逐次分科会の御提言を、そこを踏まえながら、また今までのスキームでしっかり対応させていただきたいと思っております。

○長妻委員 いや、でも、延長する、しないというのは、これは重大なことですよ。ちよつと分科会をないがしろにしているとしたら、これは大問題だと思ひますので、そこはきちつと、そういうことではない対応をしていただきたいと思ひます。

これは尾身先生にもう一度お伺いしますけれども、では、今回のGOTOトラベルキャンペーンが六月末まで延長になりましたけれども、これについて尾身先生の御意見はどんなものですか。

○尾身参考人 お答えいたします。

この六月までの延長ということについて、分科会では先ほど申しましたように議論をしていないので、メンバーの間でもしておりませう。

私の個人的な意見なら申し上げられませんが、私は、先ほど申し上げましたように、GOTOトラベルを政府が推奨された理由は、私自身、よく理解しているつもりです。経済の疲弊があつて、

それに対して何とか財政的な援助をされたいというの、非常に、ほかの国でやっているかどうかは別として、その理由、根拠、意味というのは、十分、私だけじゃなくて多くの国民が理解していると思います。

恐らく、私もはこの今の感染状況のときは中止した方がいいということを再三申し上げているわけですが、私も、私はむしろ、早く感染を下火にして、我々の言葉ではステージ2にして、そうなれば、六月なのか七月なのか、経済で困っている人が、それは政府の財政とのことで、それは私が六月がいいか七月がいいかと言う立場にありませんけれども、しっかりと抑えて下火にしてから国民の理解を得てまたしっかりとやる方が、トータルとしては、経済的にも影響があるし、国民の理解が得られやすいのではないかと、私には個人的に思います。

したがって、もう一度言いますが、今、早く感染を下火にして、下火になって、ステージ2相当になってからじっくりとまた再開すれば、それは六月であろうが七月であろうが、それは私はよくわかりませんが、再開すれば、所期の目的に合致するのではないかと個人的には思っております。

○長妻委員 いや、私もこれは全く同感であります。一旦中断して、そして六カ月間、下火になったときに六カ月、また中断後、GoToトラベル、GoToキャンペーンをやったらいというふうには、私も本当にそういうふうには思いません。

そういう意味で、これは田村大臣にちょっと伺いたいんですが、こういう、分科会から再三再四、ステージ3相当、停止要請が出ているにもかかわらず、停止するどころか延長してしまった。延長してしまった。しかも、きのう閣議決定です。田村大臣、ちょっと聞いて。秘書の方、ちょっとちょっと。聞いてください。

○橋本委員長代理 どうぞ質問を続けてください。**○長妻委員** 閣議決定というのは、これはもう大臣はみんなサインするんですよ。閣議決定、もうサインされたと思いますけれども。これは、医療を担う責任の大臣が、こういういろいろ議論の中で延長をサインしたと。厚生大臣。これは何でこんなことをしたんですか。そこで何で異議を言わないんですか。

○田村国務大臣 経済対策ですから、基本的に、経済対策全て、いろんなものがありますけれども、分科会にかけるということはないんだと思います。後ほど報告ということはありますし、そのときに、どういうことに気をつけなきゃならないかというアドバイスをいただくことはあると思います。分科会だから全て国の決定事項をかけるということはないと思います。

その上で、延長をするというのは、これは決して、今も尾身先生がおっしゃったとおり、これが経済対策としては有効であろう、その意義はよくわかるというふうには、御理解するというふうにおっしゃっておられるわけで、その中で、要するに、どこをとめるか、どこをどういう制約をかけるかというの、それは、その感染状況と、それか

らその知事さん、場合によっては、限定するのならば、そのさらなる首長さん、こういう方々と相談を多分知事さんがされて、最終的に、政府との間で方向性を決めて、そしてGoToを制約をかけるなりとめるなりするんだと思います。一方で、感染が拡大していない、感染がそれほど広がっていないところに関しては、引き続き、今もそうでありませぬけれども、GoToを行うというところでございますから、その点は何ら矛盾する話にはならないんだらうというふうに考えております。**○長妻委員** いや、お答えいただいていないですね。

サインしちゃったわけですよ。今の答弁を聞いてみると、経済担当大臣ですか、田村さんは。経済は重要ですよ。ただ、もう言いませんけれども、私も、さっき、この質問の前にお医者さんの方の意見を聞いてきました。本当に怒り心頭というか、もう諦めです。きのうも重症者、死亡者、過去最多になり、もう医療現場はしっちゃかめっちゃかですよ、大変ですよ。もう医療崩壊は起こっていると言っています。こういうときに、前回も言いましたけれども、医療や福祉関係の方々の代弁をする大臣は日本に一人しかいないんですよ。厚生労働大臣田村さん。それが唯々諾々とサインして、何ですか、今の答弁。経済担当大臣じゃないですか、あなたは、そうしたら。経済は重要だと言っているじゃないですか。でも、分科会含めて専門家の皆さんが、今はそうじゃないんだ、一旦停止をするということを言っているにもかかわらず、ずっと弁明をする。長いものに巻かれちゃ

だめですよ、大臣が。

ちよっと尾身先生にお伺いしますけれども、尾身先生、先ほど、人の動き、接触を控えることが重要だと中島委員の質問でおっしゃいました。そして、不要不急の外出の自粛も重要だとおっしゃいました。これはもちろん、旅行というのは不要不急、Gotoトラベルでの旅行というのは不要不急という理解でよろしいんですか。

○尾身参考人 お答えいたします。

私は、不要不急と今お話ししたGotoの関係は、不要不急の外出をなるべく控えてくださいというのは東京でも言っているし、大坂でも言っていますよね。これはGotoよりも広い概念、高い概念だと思えます。したがって……（長妻委員「Gotoトラベルも含むんですか」と呼ぶ）というか、そうですね、Gotoの方が、高いというか、より厳しい、そういう趣旨の中で、人々の接触をなるべく、感染した人とそうでない人の接触をなるべく抑えようという文脈の中でGotoも一緒に入ってくるというふうに考えるのが普通だと思います。

○長妻委員 ここまでおっしゃっているんですよ。本当に尾身先生は、私も、厚生省にお世話になったとき、十年前に新型インフルエンザの対応で本当に寝ずにやっていたいて、感謝しているんですよ。私は本当に尊敬している方なのでございますけれども、そこまで皆さんが、政府が分科会として尾身先生を会長にして、分科会がそこまで意見を出しておられる。九ページ目を見て、私は、これは分科会の提言ですよ、十六回の、十一月二

十日の。こういうことを書いてあるんですね、一人々の健康のための政府の英断を心からお願ひ申し上げる。」と。こんな、普通、専門家の会議が心から政府の英断を申し上げるなんていうのは、相当強いことですよ。英断していないということですよ。

だから、こういうようなことまで言わせても、なかなか田村大臣は、経済担当大臣のような答弁に終始するというのは、これは問題だと思いますよ、本当に。ほかにいないんだから、医療関係者を代弁する政府中枢の人は。

それで、尾身会長が先ほどちよっとおっしゃられたのは、私も緊急事態宣言の準備が必要だと思っておりますけれども、尾身会長がさっきおっしゃられたのは、ステージ4なら緊急事態宣言相当とおっしゃいましたけれども、私も、表を見ていると、ステージ4の段階を超えている、ベツド充足数とか、一部超えている地域もあるというふうに見ているのでございますけれども、尾身会長から見ると、ステージ4相当と個人的に、個人的にでも結構なんです、思われるようなところというの、今、旭川を含めて、日本じゅうにどこかございますか。

○尾身参考人 お答えいたします。

ステージの考え方は、先生も御承知のように、指標で、六つの指標がありますよね。あの数を機械的に当てはめるとのことよりは、医療の体制、それから検査体制、保健所への負荷、それからクォラスターのあり方などを総合的に判断する必要があると思うので、先ほど申し上げましたように、

一部の地域では非常に医療が逼迫している状況があることは、私もそう思います。

緊急事態宣言、我々が描いたあれは、最終的には国が出す緊急事態宣言というのを想定しているもので、そういう意味では、あそこでないえば、キーワードは、文字どおり機能不全ですね、医療の機能不全。逼迫というよりも、そういうことになってきた場合は緊急事態宣言ということで、今は、そういうふうになってはいけないという思いで、今いわゆる皆さんがおっしゃる勝負の三週間というところで、三週間が今ちょうど半分から三分の二、折り返しの地点だと思えますけれども、これからの政府、自治体、国民の努力によって、そういうことをぜひ、ステージ3に国全体がなることを回避すべく、集中すべき今時期だと私は思います。

○長妻委員 そうすると、尾身先生は、今、日本全国でステージ4相当だというふうには個人的に思われる地域というのはないという理解ですか、あるんですか。

○尾身参考人 なかなか、地域の中には、その地域が、医療機能が不全に近い状況になっている地域が一部あるかもしれないという認識はありますが、今、それを回避するために、それこそ今話題になっている自衛隊の派遣、及び地域の中での医療ということ、そういう、今動いている状況ですから、今そこを緊急事態というふうに宣言するということよりは、私は、今の事態をなるべく早く回避する、この二つ、医療の逼迫を、医師が足りない、看護師が足りない、応援するというそういう方向と、感染自体を抑えるという人の動き、

この両面があれば、何とかそういう最悪の状況を回避することは、条件を満たせばという、条件のことですけれども、私は可能だと思っているので、今それに全力を尽くすべき時期だと思っています。

○長妻委員 旭川などでは、福祉、障害者施設を含めて三つ、医療関係を含めてクラスターが起って、もう医療崩壊だという声も上がっております。

旭川が地元の議員にも話を聞きましたけれども、やはり、十月一日に東京がGOTトラベル解禁になってから、旭川にもたくさん旅行者が来た。

あるいは、札幌が旅行の着地点として停止になったことで、札幌にある程度近いので、札幌に行けなくなったので旭川に人が流れたということで、本当に大変な状況になっている。

尾身先生がおっしゃったような機能不全というのはもう起こっている地域があるわけですので、緊急事態宣言の私は準備に入るべきだと思いますし、その以前の問題として、GOTトラベルキャンペーンを延長するというのは、これは国民にすごい誤ったメッセージを与えるんじゃないでしょうか。

中島議員もさっき言っていましたけれども、この前の土日を調べると、箱根湯本で、その前の土日に比べると三六%も人が増加している、熱海でも二八%、人が増加している等々、いろいろ観光地で人が増加しているんですね、この前の土日。それでこういう、勝負の三週間のさなかですよ。

来週、一週間後に三週間が終わるわけですから、そのさなかにGOTトラベルを延長すると

いうのは、私は、どう考えてもこれはおかしいし、田村厚生大臣がそこにサインしたというのは、本当に、私は、事前にちゃんとしかるべきところに相談して、やめさすという努力をされたのかどうかということなんですが、田村大臣にお伺いしますけれども、田村大臣も、十一月二十五日、いいことをおっしゃっておりますよ。通常の医療を確保しづらくなっている、提供しづらくなっている、悲鳴のような声を私も聞いているというふうにおっしゃっているんですよ。これは、例えば、直接声を聞いたと思うんですけども、どんな悲鳴のような声を聞かれましたか。

○田村国務大臣 その前に、私、先ほど、東京で、例えば、今GOTキャンペーンを、六十五歳、高齢者、基礎疾患している方々に関しては制約をかけるようにしていました。それを今解禁するだとか、大阪だとか札幌のGOTキャンペーン、これは出発もそれから着も今とめていますけれども、これを今すぐ解禁するとか、そんなことは申し上げておりませんので、GOTキャンペーン自体が、これが悪いわけではなくて、感染が拡大している地域に関してはそこに制約をかける、これはアドバイザリーボードや分科会からもそのようなお話をいただいておりますからそれをやっている話であって、感染拡大していない地域に関してはGOTのいろいろな事業は今もやっていますし、それ自体がだめだという話ではないというふうに思います。

その上で、今委員から言われたお話、まさに東京の現場の話、大阪の現場の話、そういう医療が

今逼迫しているところでは、例えば、ほかの、本来、通常の医療をやりたいけれども、その人を一定程度この新型コロナウイルス感染症の方に配置せざるを得なくて、そこに対しての一定の制約がかかっているなどというふうな、そういう悲鳴に近いお声を聞いております。

○長妻委員 ちよつともうだめですね、これ。いや、医療関係者、誰が代弁するんだろうと思いますよ。

GOTトラベルがだめなんじゃないとおっしゃいましたけれども、ステージ3のところのGOTトラベルはだめなんです。ステージ3地域はだめだとおっしゃっているんですよ。だめじゃないですか。東京二十三区、とめていないじゃないですか。

これは、きょう国土交通省来られておられますけれども、観光庁の担当大臣、担当副大臣ですかね、今、GOTトラベルキャンペーンでクラスターは大体幾つぐらい起こりましたか。

○岩井副大臣 お答えいたします。

昨日、十二月の八日の段階なんですけど、それまでに観光庁が報告を受けているところでは、GOTトラベル事業を利用した団体旅行において、五人というところで考えますと、陽性が判明したケースは八件ございました。

○長妻委員 八件ということで、二件だけ、国土交通省、これは資料一で報告しましたけれども、ほかはちよつと報告されていないということ、一体どういうものなのか、分科会と共有して、情報を分析してほしい。

利用者、従業員で、GoToトラベルで感染した最新の数字を教えてください。

○岩井副大臣 お答えをいたします。

同じく十二月八日、きのうの段階でございますが、観光庁が報告を受けているところで、GoToトラベル事業の利用者で、まず、新型コロナウイルスの陽性が判明した方は二百五十八名、八日の段階です。また、同じく十二月八日までに観光庁が報告を受けているところでは、今度は、GoToトラベル事業の参加登録の宿泊施設の従業員においては、新型コロナウイルスの陽性が判明した方は二百二十名となっております。

○長妻委員 そして、私、びつくりしたのは、実はGoToイートも延長になっているんですね、六月末まで。GoToイートの食事券、これも六月末まで延長だと。

これもびつくりしましたが、GoToイートの担当副大臣、来られておられますけれども、GoToイートの利用店の従業員の方の感染者、そして都道府県、上位五つぐらい教えていただけますか。何人か。どの店舗か。

○葉梨副大臣 GoToイートでございますが、十二月三日時点で、従業員ですが、事業者を通じて報告のあった従業員の感染者七十六名、店舗数五十八名です。

上位ですけれども、東京都が十三店舗、千葉県七店舗、北海道六店舗、神奈川県五店舗、愛知五店舗となっております。

今、もうポイントの付与は終了しております、食事券につきましても、分科会の御意見を承りま

したので、各都道府県において、感染が拡大している都道府県においては食事券の発行を一時停止するなどの措置をとっている都道府県もございません。

そういうことも勘案して、GoToトラベルとも平仄を合わせて、六月末までの延長ということにさせていただきます。

○長妻委員 経済と感染防止をてんびんにかけてバランスをとるといのはわかるんですけども、今はもう感染防止に大きくシフトする時期なんです。これは誰でもわかると思うんですよ。これは何か、GoToトラベルキャンペーン、二階案件という声も聞こえてきますけれども、そういう長いものに巻かれているとしたら、これは政治家じゃないですよ。そんなものは突破しないと。空気を読み過ぎちゃだめだと思うんですよ、私は。

これは、基本戦略は、前から言っていますとおり、ちゃんとしたワクチンができるまでの間、医療崩壊は絶対起こさせない、助かる命が助からなくなるということは絶対起こさせないというのが基本戦略だと思うんですよ、ワクチンができるまでの間。ですから、終息、ステージ2ぐらいになつたらそれはいいですよ、始めても、GoToキャンペーン。それまで何で我慢できないのか。

経済の方々もそれは大変ですよ、刻一刻窮乏してくるんですけども。そこら辺をぜひ、田村大臣、これは期待のあらわれで言っているんですから。だって、ほかの大臣に聞いても、経済、経済、経済、経済ばかりなんです。

やはり本当に、本当に、看護師さんの声も、き

のうも夜のニュースを見ていたら、お医者さんが代弁していて、本当に涙が出てきましたけれども、私も直接もいろいろお話を聞いていますが、まさに命がけで、本当は逃げ出したいんですけども、逃げ出した方もいるけれども、それは使命感で踏みとどまっているので、これはぜひ国を挙げて英断を、分科会が言うように英断を、私は、リードできるのは田村大臣しかいないし、田村大臣が長いものに巻かれていたら、歴史的に裁断されると思いますよ。ぜひよろしくお願いをします。

尾身先生、どうもありがとうございました。